

はじめに

今日、生涯学習社会の構築に向けて、国をはじめ地方公共団体、民間にいたるまで、様々な施策や研究が続けられ、具体的な実践の段階へと発展をつづけていると言われていいます。大学には、リカレント教育の場として、多様化・高度化する市民の学習に対応する生涯学習のセンターとしての機能が期待されています。同時に各大学の取り組みとその成果は、いまや全国的に拡大しつつあることは、周知の通りです。

地域に開かれた大学の研究の拠点として、本学の生涯学習研究所も3年目を経過し、地域の生涯学習の推進のために、ささやかではありますが研究・実践に努めて参りました。

聖徳大学では、オープンアカデミー(SOA)において、本学の有する学習資源を広く学内外に、活用を試みていますが、これと連動する生涯学習研究所では、自治体の生涯学習政策や青少年の生涯学習推進のための研究等に重点をおいて活動を続けています。

今後の充実のためには、研究所の特色としては、高等教育機関として研究機能が優れたものでなければなりません。その一つとして、研究紀要の発行は、もっとも基礎的な研究活動であります。そしてこのたび、その成果の一部がここに発表することになりました。

もとより、生涯学習の領域は、あらゆる分野にまたがります。それだけに、生涯学習はこれから可能性の広い学問分野であるという認識もあります。しかし、その研究は、不十分であり、まだまだこれから、という関係者の意見も数多く聞かれます。本号でも、投稿された研究には、多領域の傾向が表れておりますが、今後さらに多領域、学際的な研究が進められることを期待したいと思います。さいわいに、聖徳大学は、人文学部に多分野の研究領域をもち、短期大学部を含めて総合的な学園として組織されており、研究のための土壌は十分に存在しているものと自負しております。

この紀要の発行にあたっては、全学の教職員を対象に、研究発表について公募しましたが、多数の投稿や問い合わせがあったことが、報告されています。あらためて教職員の皆様、生涯学習および研究活動に関心を持っていただいていることを認識いたしました。

ここに創刊号が発行できましたことに、あらためて感謝いたします。これらの研究成果は、これからも研究を発展させなければならないものばかりであります。その意味でもみなさまの今後のますますの研究の継続と発展を望みたいと思います。

聖徳大学学長
川並 弘昭